

# わかりやすい財政白書

(令和6年度決算)



令和8年3月  
小美玉市

# もくじ

はじめに	1
------	---

1. 小美玉市の家計簿	2
-------------	---

2. 小美玉市の財政指標	4
--------------	---

- (1) 財政力指数
- (2) 経常収支比率
- (3) 実質公債費比率
- (4) 将来負担比率

3. 小美玉市の財政状況	8
--------------	---

- (1) 市税の推移
- (2) 基金の推移
- (3) 借入金残高の推移
- (4) 義務的経費の推移

4. 小美玉市の財務書類	12
--------------	----

- (1) 新地方公会計における財務書類について
- (2) 貸借対照表
- (3) 行政コスト計算書
- (4) 純資産変動計算書
- (5) 資金収支計算書

おわりに	17
------	----

## はじめに

市民の皆様にも小美玉市の財政状況をお知らせするために、「わかりやすい財政白書」を作成しました。

市の財政状況については、これまでも法令や国の制度などに基づき様々な角度から調査・公表をしています。この白書は、これらのばらばらであった公表結果をひとつにまとめ、よりわかりやすく解説することで、市民の皆様にもっと身近に市の財政について感じていただくことを目的として作成しています。そして、小美玉市誕生からこれまでがどのような財政状況であったか一目でわかるグラフに加え、これまで積み上げてきた財産（資産）や将来へ引き継がれる負担（負債）について財務書類で解説しています。また、わかりやすさ・馴染みやすさを最優先し、一番お伝えしたいポイントに絞っておりますので、より詳しい内容につきましては、従来どおり市ウェブサイトに掲載しております「予算／決算」の各種資料をご覧ください。

本書が市民の皆様と市財政運営における現状と課題を共有しながら、今後も持続可能な健全財政を維持していく取り組みの一助となれば幸いです。

ぼく、おみたん！  
ぼくと一緒に小美玉市の財政状況をみていこう！



# 1. 小美玉市の家計簿

決算額を 5,000 分の 1 に縮小し、1 か月分を算出して、市の財政状況を家計簿に見立てました。

収入	(1月あたり)	▼前年比
給与(基本給) 市税(市民税、固定資産税など)	11万3,900円	-2,200円
給与(諸手当) 地方交付税、地方譲与税、各種交付金	13万8,200円	+8,900円
パート収入 諸収入、使用料・手数料、財産収入など	2万5,100円	+4,000円
親からの援助 国・県支出金	11万2,700円	+6,400円
ローン(借入金) 市債	6,800円	-5,500円
貯金引き出し 基金繰入金など	3万1,100円	+8,700円
前年度に残ったお金 繰越金	1万8,500円	+4,600円
<b>収入合計</b>	<b>44万6,300円</b>	<b>+2万4,900円</b>
<b>貯金残高</b>	<b>182万4,000円</b>	<b>-11万6,000円</b>

支出	(1月あたり)	▼前年比
食費 人件費	6万9,500円	+3,800円
光熱水費など雑費 物件費(光熱水費、消耗品費、委託料など)	6万9,700円	+6,500円
医療・介護・教育費 扶助費、補助費など	14万5,500円	+3,700円
家の改築・修繕、防災対策 投資的経費、維持補修費	4万0,600円	+6,800円
子どもへの仕送り 貸付金、繰出金	3万7,400円	-1,000円
ローンの返済 公債費(市債の返還)	4万4,300円	0円
貯金 積立金	2万0,900円	+5,200円
<b>支出合計</b>	<b>42万7,900円</b>	<b>+2万5,000円</b>
<b>ローン残高</b>	<b>454万円</b>	<b>-42万円</b>

まずは、小美玉市の財政事情を家計に例えてみたよ。  
令和6年度の小美玉市の一般会計を5,000分の1に縮小すると、1か月分の収入が約44.6万円、支出が約42.8万円になるよ。



～解説【収入】～

給料（基本給）・・・市税（市民の皆様から市へ直接納めていただいた税金）

給料（諸手当）・・・地方交付税・各種交付金（国に納められた税金のうち市に配分されたお金）

パート収入・・・諸収入、使用料・手数料・財産収入・寄附金（保育所や放課後児童クラブに通うとき、住民票等の証明をもらうとき、市の施設を利用するときなどに負担していたお金や土地等の売却収入、寄附金など）

親からの援助・・・国庫支出金・県支出金（国や県から使い道が決められてもらったお金）

ローン（借入金）・・・市債（主に建設事業費に充てるため、銀行や国などから借りたお金）

貯金引き出し・・・繰入金（基金（貯金）を取り崩したお金）

前年度に残ったお金・・・繰越金（昨年度1年間の収入から支出を差し引いて残ったお金）

～解説【支出】～

食費・・・人件費

（議員や市長・副市長・教育長、職員（会計年度任用職員含む）などの給与、各委員会の委員報酬）

光熱水費など雑費・・・物件費

（施設の警備や点検等の民間事業者への業務の委託料、光熱水費、郵便料など）

医療・介護・教育費・・・扶助費・補助費等

（児童・障がい者・高齢者向けのサービスや生活保護が必要な方等を援助するお金や、地区敬老会や商工会、文化グループなど各種団体や市民の方が行う事業に対する助成金、ごみ処理施設や斎場などの組合へ負担するお金）

家の改築・修繕、防災対策・・・投資的経費・維持補修費

（施設や道路の修繕、学校や道路の整備（建替えや新設など））

子どもへの仕送り・・・繰出金、貸付金、投資及び出資金

（国民健康保険、介護保険などの特別会計・企業会計（別のお財布）へ出したお金や貸付事業のお金や公益団体などへの出資金）

ローンの返済・・・公債費（銀行や国から借り入れたお金の返済）

貯金・・・積立金（基金（貯金）への積み立て）

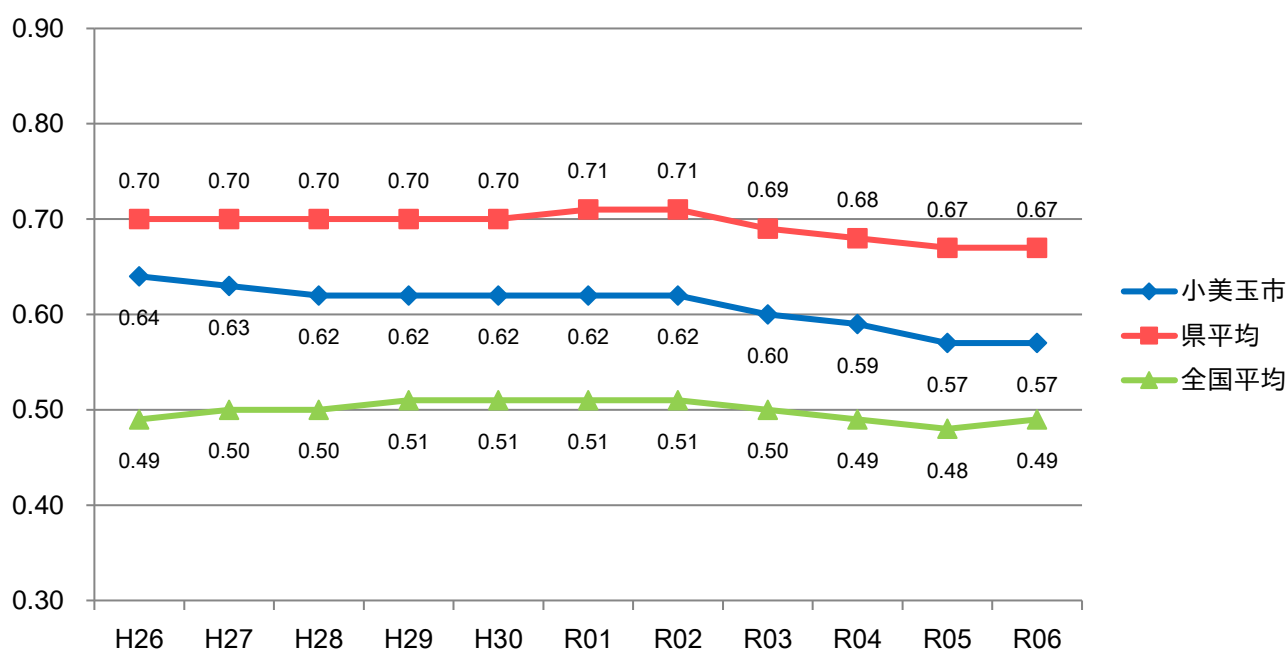
## 2. 小美玉市の財政指標

小美玉市の財政をいくつかの財政指標（＝全国統一の基準）でみてみましょう。

### （１）財政力指数

国が示したルールに沿って、小美玉市の規模（市の面積や人口、世帯数、納税者数、道路の長さや学校の数、農家の数など多岐にわたる項目）から見込まれる収入（基準財政収入額）と支出（基準財政需要額）の割合（収入÷支出）をいいます。

これが1に近いほど、数値が大きいほど財政に余裕があり良いとされます。また、この指数が1より小さい（＝支出が収入より大きい）場合は、その差額（不足分）が国から「普通交付税」として交付されます。

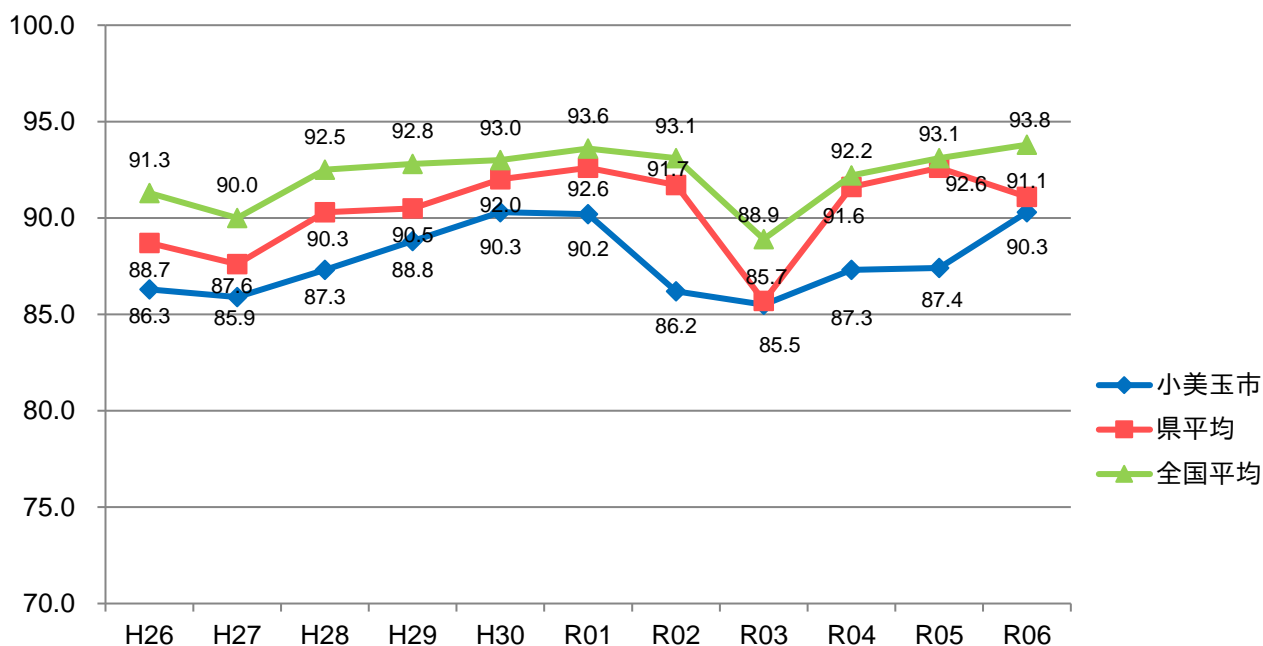


標準的な行政サービスを提供するために必要な費用に対して、市の税金などがどのくらいの割合を占めているかを表す数値だよ。小美玉市はずっと県の平均と全国平均の間だね。



## (2) 経常収支比率

毎年常に入ってくるお金（市税や普通交付税など）と毎年支払わなくてはならないお金（市債の返済（公債費）や医療や福祉サービス費（扶助費）、給与等（人件費）であり、「義務的経費」といいます）を比べたもので、この比率が低いほど、臨時的な経費に使えるお金が多いことを意味し、様々な市独自のサービスができることにつながります。



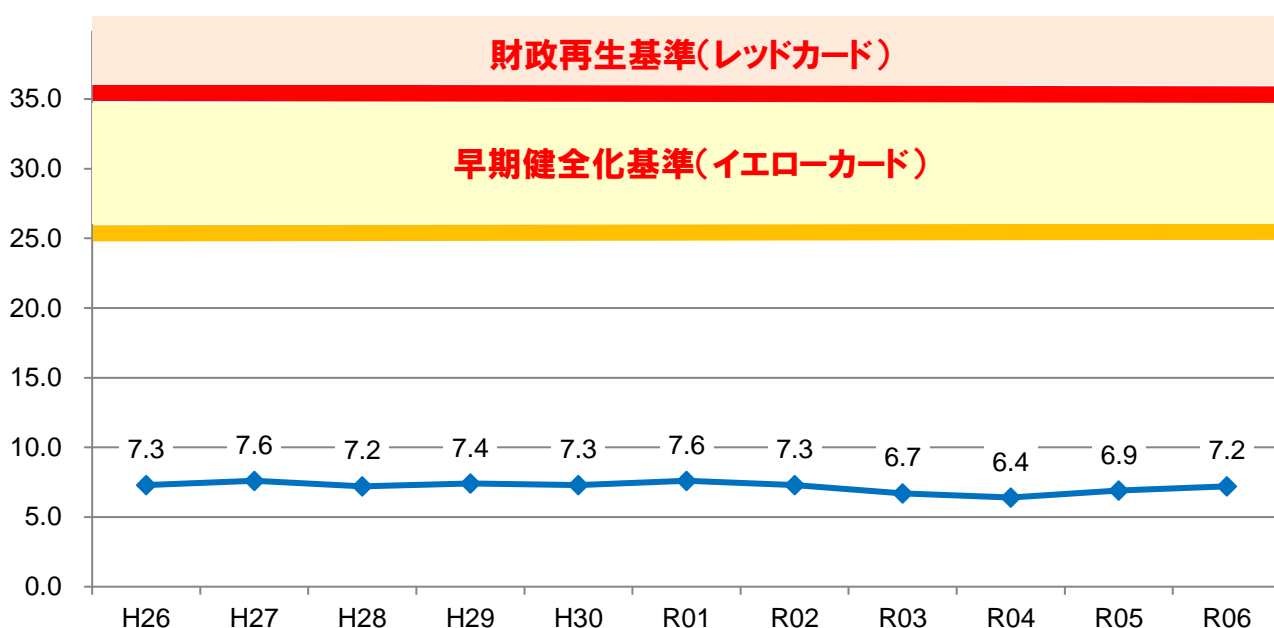
物価高騰や人件費の上昇により、経常的な支出が増えているから比率が上がってきているね。この数字が高くなりすぎないように、職員の定員管理やお金を借り入れて行うような大規模建設事業は、計画的に取り組んでいるよ。



### (3) 実質公債費比率

実質公債費比率は、市の借入金に関わる指標です。市が直接借りたお金だけでなく、間接的に借りたとみなされるもの（ごみ処理施設組合が設備更新のため借入したことに対して、市が負担金を出した場合など）も含めて、その年の返済額が、その年の使い道が自由な収入に占める割合を出し、直近の3年間で平均したものです。

25%を超えると早期健全化基準（イエローカード）、35%を超えると財政再生基準（レッドカード）に該当し、財政破綻の危機があるため県の許可なく市債の借入ができなくなったり、財政再生計画を国に提出し、財政を立て直ししたりする必要が出てきます。



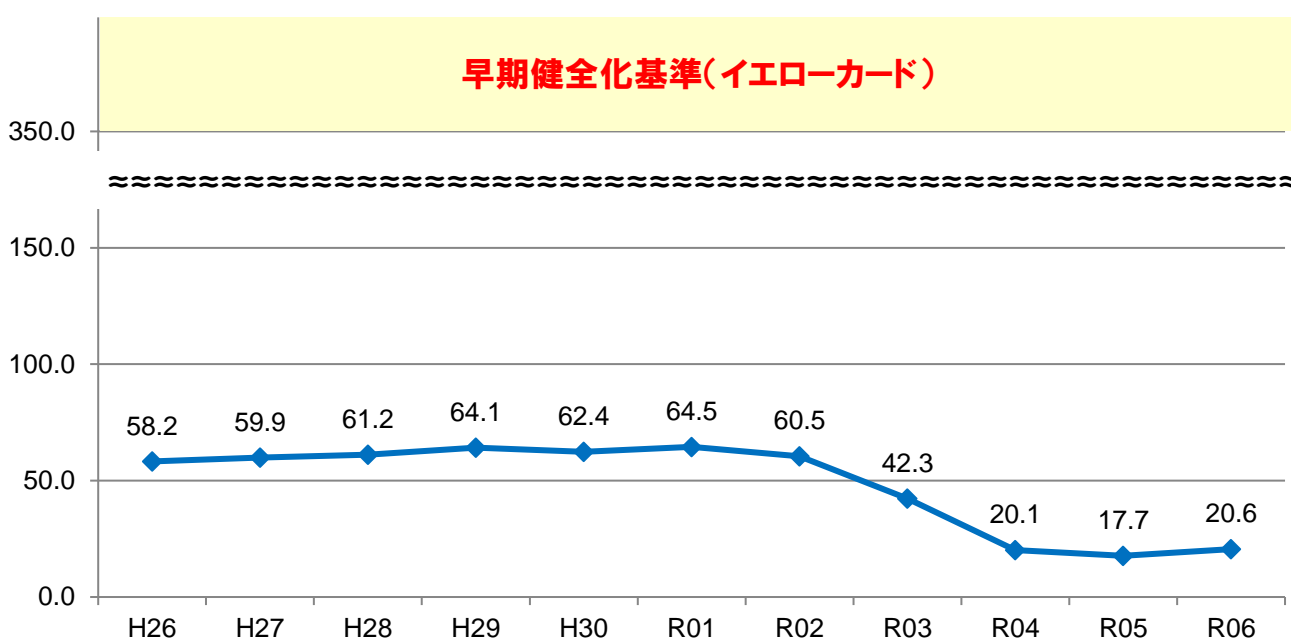
小美玉市はイエローカードになる基準（25%）よりだいぶ下回っているね。  
借入金を無理なく返済しながら、同時に様々な分野で事業を実施できているということだね。



#### (4) 将来負担比率

将来負担比率は市の借入金をはじめとした将来に渡り支払わなくてはならない費用（負債）の総額が、1年間の収入規模の何倍になるかを示した指標です。家計に例えると、住宅ローンの残高が年収の何倍になるかを表しています。

小美玉市の場合、国が定める基準は 350%未満とされています。この基準を超えると財政健全化計画を国に提出し、事業や組織の見直し、収入の確保などより厳しい財政改善が求められます。



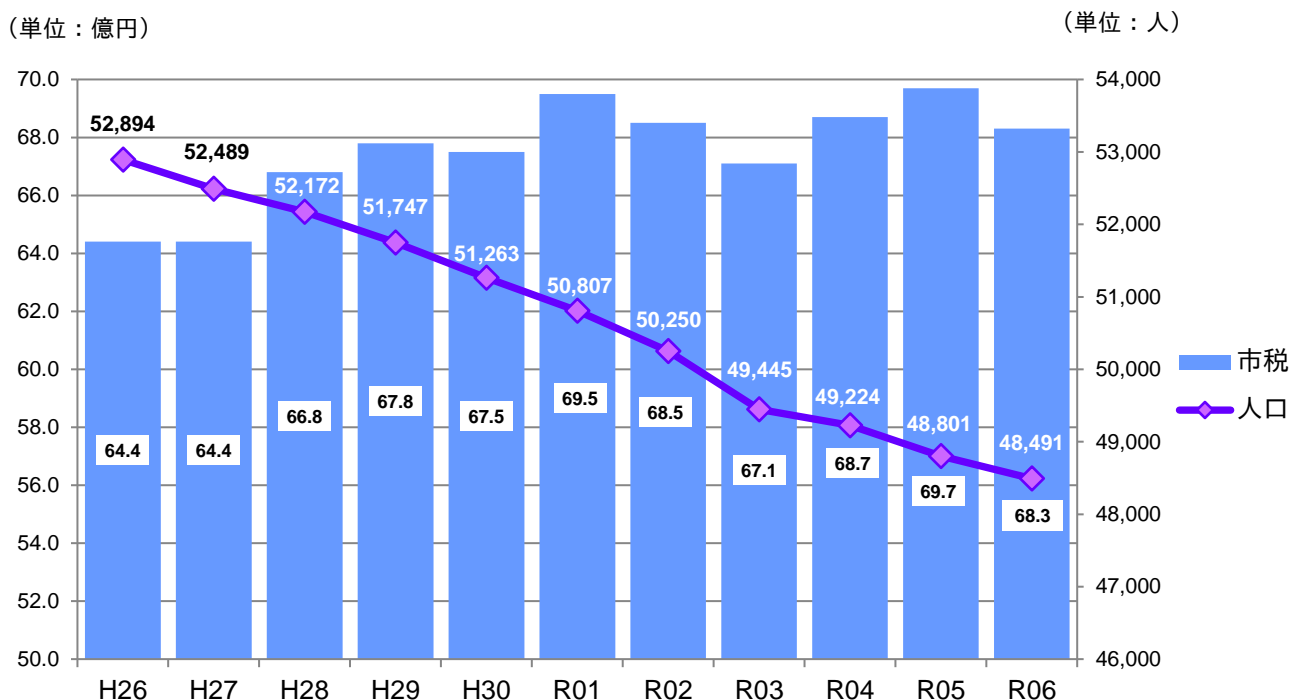
将来負担比率は、イエローカードのラインを大きく下回って良好な結果だね。大規模な工事が落ち着いて借入金が減ったことで、将来の負担も少なくなっているよ。これからも将来の負担が大きくならないようにしていくよ。



### 3. 小美玉市の財政状況

#### (1) 市税の推移

市の収入として一番大切な市税にはいろいろな種類があります。個人や法人の住民税、土地や建物などにかかる固定資産税、軽自動車や原付バイクなどにかかる軽自動車税やたばこ税などがあります。



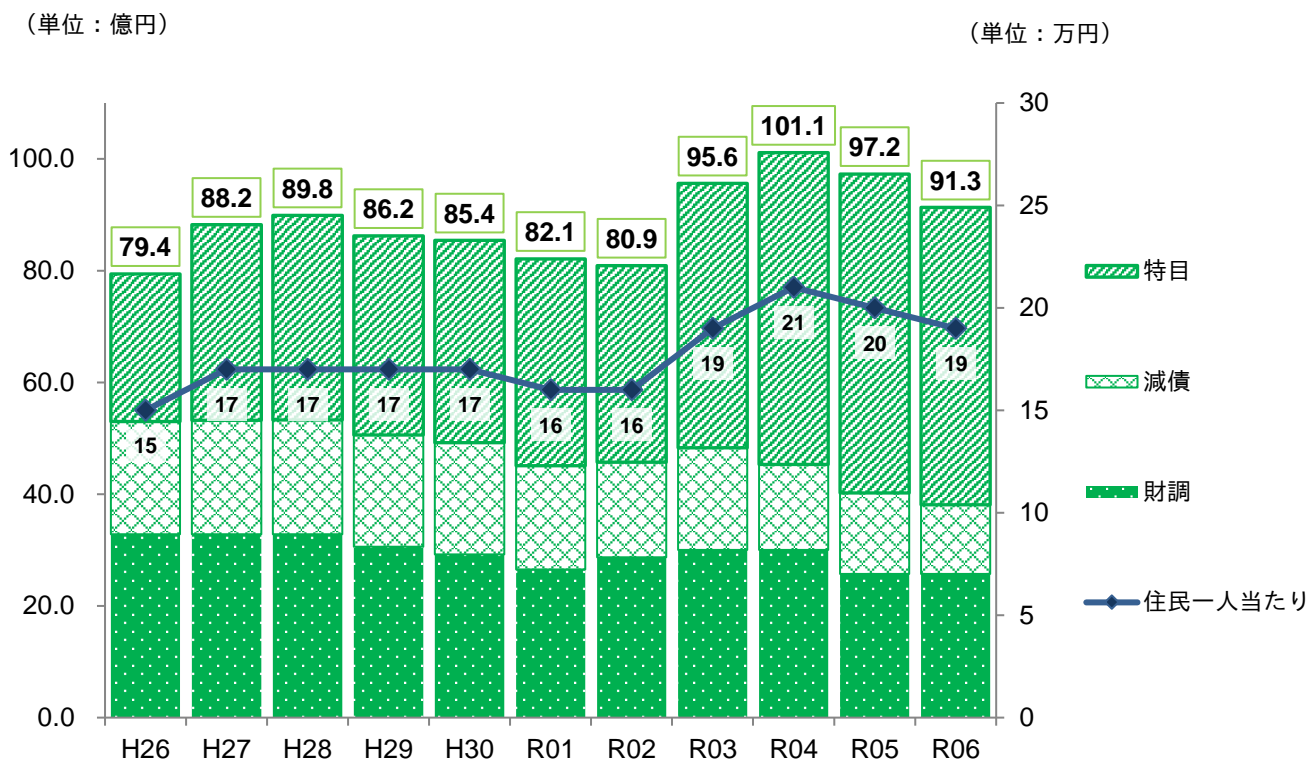
令和6年度は個人住民税や固定資産税が減ったことで、市税全体が減少しているよ。

小美玉市でも人口は年々減少が進んでいるから、市では子育て支援や移住・定住促進事業に力を入れて、みんながずっと住み続けたいと思えるまちづくりを頑張っているんだ！



## (2) 基金の推移

基金とは、市の貯金のようなもので、大きく分けると3種類あります。あらかじめ使い道を決めて貯めておく「特定目的基金」。一時的な歳入不足を調整する時や、災害など緊急に必要な経費のための「財政調整基金」。そして、借入金を計画的に返済する財源とするための「減債基金」があります。

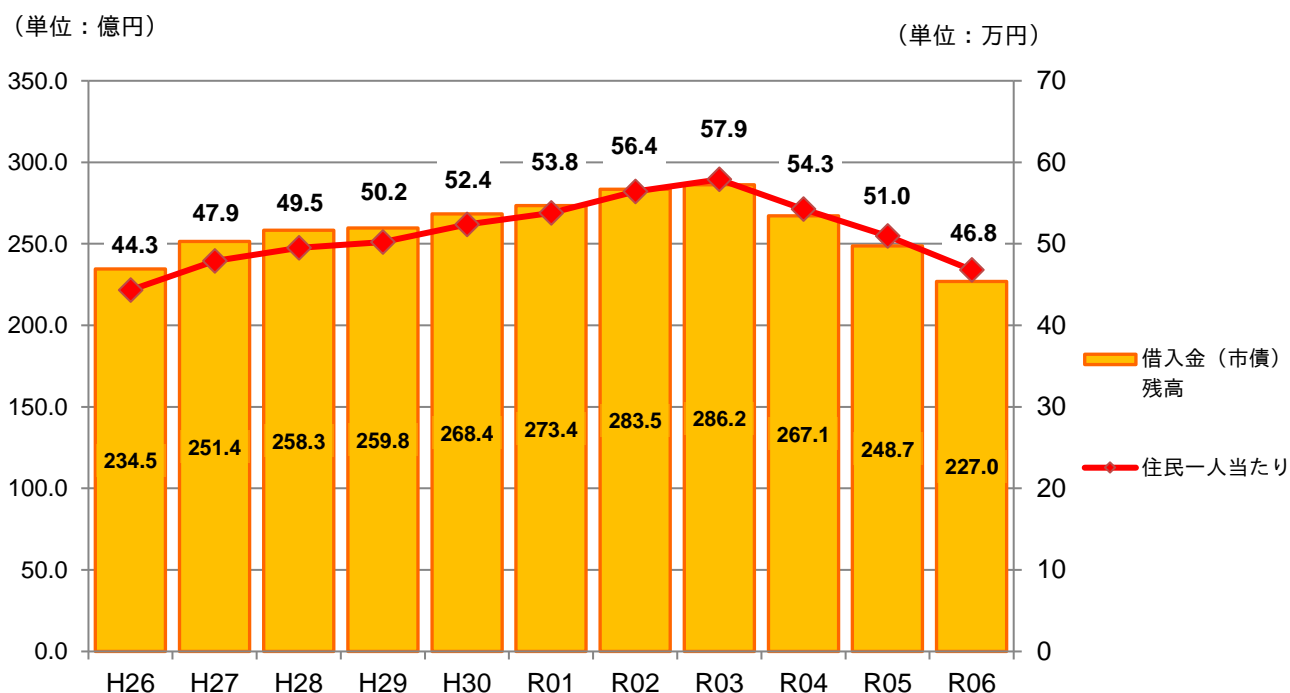


令和6年度は、物価高騰対策や校舎の解体工事のために基金を使ったから、基金残高が減ったよ。  
小美玉市は人口が減っていて、歳入の増加は見込めないけど、公共施設の修繕費用は増えそうだから、基金を使うことが増えそうだね。



### (3) 借入金残高の推移

市が実施する学校建設や幹線道路の整備など大規模な建設事業を実施しようとした場合、一時的に多額のお金が必要になります。これを全てその年に入る税金などでまかなおうとすると、ほかの事業ができなくなってしまう。また、学校や道路等は将来の世代も長く使っていくものなので、建設事業に関しては県から同意を得て、国や銀行等からお金を借りることが認められています。



大きな施設づくりや道路整備が落ち着いてきたことで、新しく借りるお金よりも、返していくお金の方が増えて、借入残高は令和3年度をピークに、年々減っているよ。

次の世代への負担が大きくなるように計画的に残高の整理をしていかないとね。



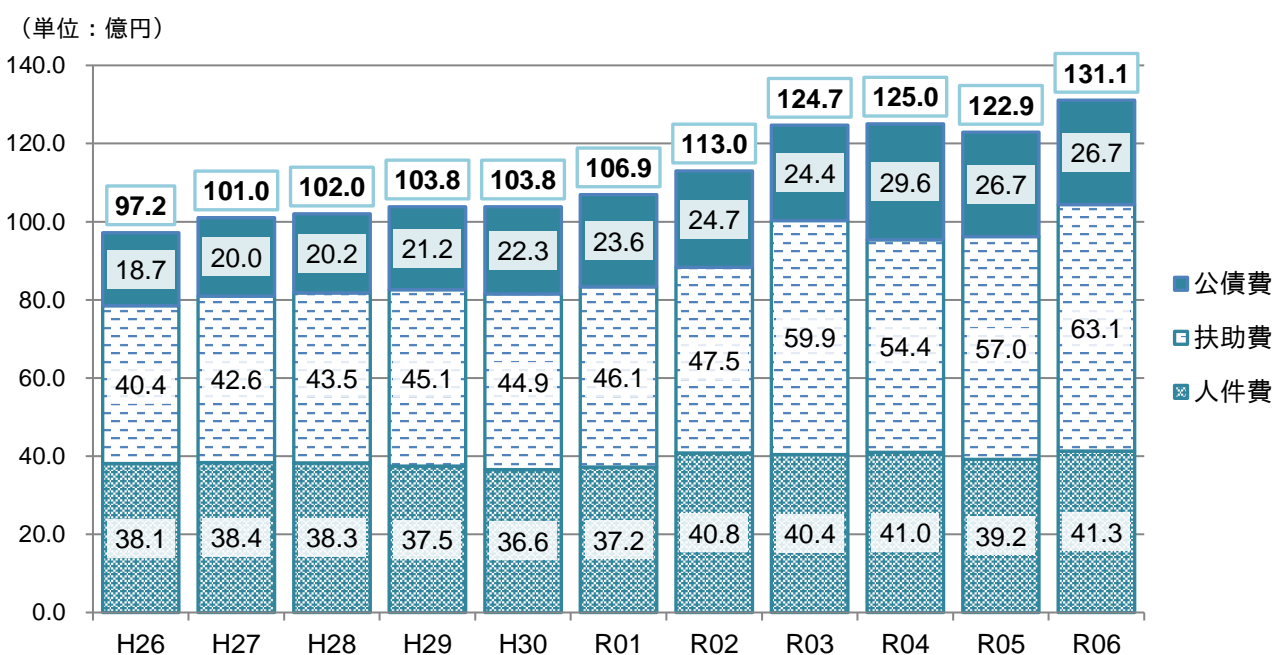
#### (4) 義務的経費の推移

義務的経費とは、いろいろな福祉や医療に関する費用や借入金の返済、議員報酬や職員給与など、支払わなくてはならないお金のことです。

**公債費**とは、借入金の返済に要する経費を指します。令和6年度は、令和5年度と比較すると横ばいですが令和3年度以前と比較すると増加しており、学校建設等で借りた借入金の返済が開始したことが要因としてあげられます。今後数年間は、大規模事業の進捗により増加傾向になると想定されるので、借入を抑制していく必要があります。

**扶助費**とは、福祉や医療に関わる費用です。国の制度改正や利用者が年々増えているため、増加傾向にあります。令和6年度は、障害者自立支援給付費の増加や制度改正に伴う児童手当が増えたことで増加しました。

**人件費**については、令和6年度は、人事院勧告による給与改訂により増加しました。今後も業務のDX改革を進め、雇用の見直しなど人件費の抑制に努めていく必要があります。



令和6年度は障害者自立支援給付費の増加や児童手当の増額により、扶助費が増えているね。  
今後も高齢化により社会保障費の増加が見込まれるから、給付費の適正化に努めていく必要があるよ。

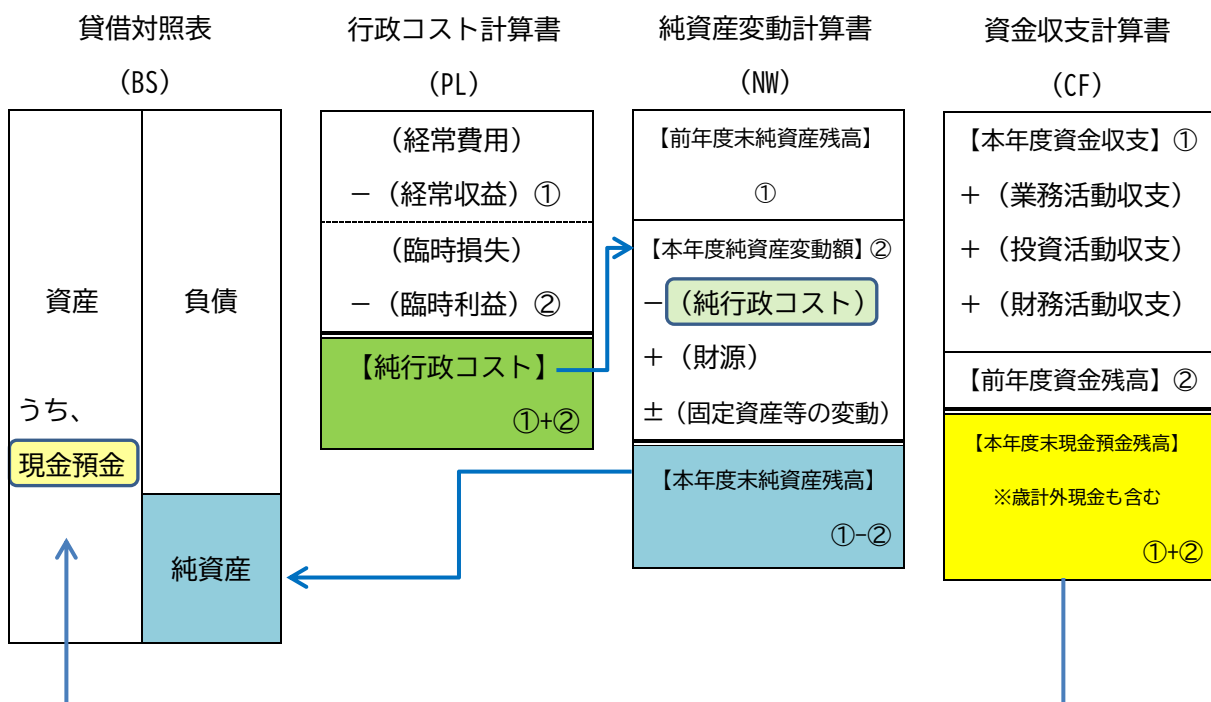


## 4. 小美玉市の財務書類

### (1) 新地方公会計における財務書類について

自治体でも企業のように複式簿記を採用し、その年の現金の出入りだけでなく、これまでに築いてきた資産（建物・土地・道路・預金）や将来にわたり負担となる負債も把握・管理することが重要となっています。そのため、新地方公会計制度に基づいて全国統一の作成方法で、企業会計のような財務書類4表を作成しています。

【財務書類4表の関係図】



財務書類4表は矢印の部分がつながってそれぞれ関係しているよ。企業の決算書のようなだね。  
これからは市も企業のようにお金の出入りだけでなく、資産（財産）や負債も把握してコスト意識を高めていかないと！「市を経営する」感覚が大事だね！

## (2) 貸借対照表 (BS : Balance Sheet)

貸借対照表とは、1年間だけの資産や負債の変動ではなく、市が積み上げてきた資産と負債及び純資産を表しています。過去の世代が形成してきた資産と将来世代が負担することとなる負債を示します。ここでは、企業でいう連結決算と同じように、小美玉市と関係のある一部事務組合等も含めた「連結」会計での決算を表示しています。

(単位：億円)

科目	連結	科目	連結
<b>【資産の部】</b>		<b>【負債の部】</b>	
<b>固定資産</b>	<b>1,098</b>	<b>固定負債</b>	<b>558</b>
① 有形固定資産	1,014	① 地方債	355
・事業用資産	342	② その他	203
・インフラ資産	659	<b>流動負債</b>	<b>42</b>
・物品	14	① 1年内償還予定地方債等	35
② 無形固定資産	14	② その他	7
③ 投資その他の資産	69	<b>負債合計</b>	<b>600</b>
<b>流動資産</b>	<b>76</b>	<b>純資産</b>	
① 現金預金	30	<b>純資産合計</b>	<b>574</b>
② 未収金	5		
③ 基金	39		
④ その他	1		
<b>資産合計</b>	<b>1,174</b>	<b>負債及び純資産合計</b>	<b>1,174</b>

※表示単位未満を四捨五入していますので、合計額が一致しない場合があります。

左側が小美玉市や関係する一部事務組合等を含めた全ての「資産」で、学校や公民館、文化センターや道路、ごみ処理施設や上下水道設備、預金（基金）などで総額 1,174 億円だよ。

「資産」＝「負債」＋「純資産」で、資産は借入金等の負債と純粋な将来負担のない部分から成り立っているよ。



右上は「負債」で、合計 600 億円だよ。これまで建物や道路などを作ってきたときの借金残高や職員全員分の退職金見込み額など、将来負担する予定の額になっているよ。右下は「純資産」で、574 億円。資産の額から負債の額を差し引いた、純粋な資産の額だよ。大きな建設事業でお金を借りたから、純資産よりも負債が少し多くなっているね。将来の世代の負担が大きくならないようにしないとイケないね。

### (3) 行政コスト計算書 (P L : Profit and Loss statement)

行政コスト計算書は、職員給与や庁舎等維持管理費、社会保障給付費など資産形成につながらない行政サービスの提供に要したコストを性質別に表示しています。また、減価償却費や各種引当金繰入額等を計上することで、歳入歳出決算書では見えにくい、行政サービスの費用と収益の情報を集約しています。

(単位：億円)

科目	連結
<b>経常費用</b>	<b>385</b>
① 業務費用	170
・人件費	45
・物件費等 (うち減価償却費)	118
・その他の業務費用	38
② 移転費用	8
・補助金等	215
・社会保障給付	169
・その他	46
	1
<b>経常収益</b>	<b>23</b>
① 使用料及び手数料	16
② その他	7
<b>純経常行政コスト</b>	<b>362</b>
<b>臨時損失</b>	<b>2</b>
<b>臨時利益</b>	<b>2</b>
<b>純行政コスト</b>	<b>361</b>

※表示単位未満を四捨五入していますので、合計額が一致しない場合があります。



行政サービスを提供するための人件費や補助金、社会保障給付などの経常費用は 385 億円。医療保険や介護保険の給付が含まれる「補助金」や生活保護扶助費などの「社会保障給付」の合計は 215 億円で、経常費用全体の約 6 割を占めているよ！経常収益（市税や医療・介護保険料はここに含まれません。）は 23 億円だったよ。純行政コストは 361 億円で、赤字のようにみえるけれど、これを市税や保険料、国県補助金でまかなっているよ。

#### (4) 純資産変動計算書 (NW: Net Worth statement)

純資産変動計算書は、貸借対照表の「純資産の部」に計上されている数値の期間中の内部変動を表しています。行政コスト計算書で計算された純行政コストを税収や国県等補助金で賄ったことを示すとともに、純資産の変動から固定資産（建設投資や貸付金、基金等）等の増減状況を把握することができます。

(単位：億円)

科目	連結
<b>純行政コスト</b>	<b>△361</b>
<b>財源</b>	<b>367</b>
① 税収等	223
② 国県等補助金	144
<b>本年度差額</b>	<b>6</b>
<b>その他増減</b>	<b>6</b>
<b>本年度純資産変動額</b>	<b>12</b>
<b>前年度末純資産残高</b>	<b>562</b>
<b>本年度末純資産残高</b>	<b>574</b>

※表示単位未満を四捨五入していますので、合計額が一致しない場合があります。

本年度末の純資産残高は 574 億円で、前年度末の 562 億円から、この 1 年間で 12 億円増えたよ。  
これからも人口減少や社会保障費の増加が見込まれるから、純資産を減らさないように、効率的なお金の使い道を考えていかないといけないね。



## (5) 資金収支計算書 (CF : Cash Flow statement)

資金収支計算書は、市の1年間の現金の動きを明らかにするものです。

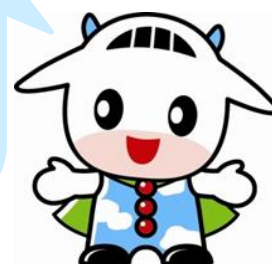
業務活動収支（行政サービスや税金等により毎年継続的に発生する支出と収入）、投資活動収支（投資的事業に係る臨時に発生する支出と収入）、財務活動収支（地方債の償還や発行に伴い発生する支出と収入）の3区分により表示します。

(単位：億円)

科目	連結
<b>業務活動収支【A】</b>	<b>34</b>
① 業務支出	346
② 業務収入	380
③ 臨時支出	1
④ 臨時収入	1
<b>投資活動収支【B】</b>	<b>△11</b>
① 投資活動支出	43
・公共施設等整備費支出	30
・基金積立金支出	13
・その他の支出	1
② 投資活動収入	32
・国県等補助金収入	9
・基金取崩収入	22
・その他の収入	1
<b>基礎的財政収支【A】+【B】</b> ※支払利息支出・基金積立支出・基金取崩収入を除く	<b>16</b>
<b>財務活動収支</b>	<b>△23</b>
① 財政活動支出	36
② 財務活動収入	13
<b>本年度資金収支額</b>	<b>△1</b>
<b>前年度末資金残高</b>	<b>31</b>
<b>比例連結割合変更に伴う差額</b>	<b>△1</b>
<b>本年度末資金残高</b>	<b>29</b>

※表示単位未満を四捨五入していますので、合計額が一致しない場合があります。

日々の活動で 34 億円の黒字、施設整備などで 11 億円の赤字だったよ。これを合わせた「基礎的財政収支」は、大きな工事が落ち着いたこともあって 16 億円の黒字になったんだ！一方、借金の返済が借り入れを上回ったから、財務活動は 23 億円の赤字だよ。借金のお金は、あとで国からお金（交付税）がもらえる有利な「合併特例債」などをうまく使って、将来の負担を減らす工夫もしているんだね！



## おわりに

ここで取り上げた財政指標は、数ある指標のうちの代表的なもので、計画（予算）を立てて実行（決算）し、全国統一の「ものさし」で測った結果です。これらの結果から、おおむね市の財政状況は良好であると言えますが、地方の人口減少時代と言われる今、小美玉市も例外なくその課題に直面しています。これに向き合い、人口流出に歯止めをかけていかなければ、将来において予算すら立てることが困難となり、これまでの行政活動の規模を縮小せざるを得なくなってしまうと見込まれます。市では、総合計画をもとに移住促進事業や出会いから結婚、出産、子育てそして教育や就業など、このほか様々な場面でのサポート事業を展開しています。

また、医療や介護などの社会保障についても安心して受けられ、かつ、幹線道路や危険なため池の改修整備など、利便性も兼ね備えた災害に強いまちづくりにも引き続き力を入れて、生涯にわたり安心・安全に暮らしていけるまちを目指しています。

小美玉市においては、昨年に引き続き法人税が増加しているものの、今後の市内人口の減少による減収が見込まれます。また、社会保障費の増加や市債の償還による公債費の増加など、義務的経費の増加が避けられないため、より少ないコストで最大の効果を出せる事業体系を整えていかなければなりません。今後も健全で安定した財政運営を継続していくには、市の総合計画をはじめ、各分野における計画に基づき実施した事業の結果がどうであったか、行政評価の機能をより効果のあるものとする必要があります。そして、今ある小美玉市の資産をどう活用し、発展させ、将来の世代へ引き継いでいくかは、行政だけでなく、市民の方々や企業の方々と協働で取り組んでいく課題と認識しているところです。これからも、この白書を通じて皆様方と財政状況を共有しながら、市行財政運営に取り組んでまいります。

令和8年3月 小美玉市財務部 財政課